



田口八重子さんの思い出

昭和30(1955)年8月10日生 埼玉県
昭和53(1978)年6月頃、拉致(22歳)

うの情報で10名くらいに絞ったようです。2回目の調査団が10名の写真を持って行ったら、うちの妹の写真を指差して、「この人です」と。それで警察が断定しました。自殺しようとした金賢姫が命をとりとめなかつたら未だに田口八重子のは分らないということ。お蔭様でという気持ちです。夜になると、「自分の子どもは何歳になつたかしらと言っていた」と金賢姫さんの本にあります。きっと兄たちが面倒を見てくれてるだろうと思つていると思つています。当時1歳の赤ちゃんなが、こんなに大きくなるまで解決できないというのが悲劇だと思います。侘しさと怒りがごちゃ混ぜになつた気分です。もし八重子が飛行機のタラップを降りてきたら「ごめんなさい」と言うつもりです。こんなに長く助けられなくて。

飯塚繁雄さん(八重子さんの兄) 平成16年11月11日、東京連続集会発言から要約



飯塚繁雄さん(左)に対し、米国防総省のイングリッド副長官(右)は「皆様の良き友人がいることを忘れてはいけない」と支援を約束。平成18年4月26日、国防総省にて

私たちは7人兄弟で、八重子は一番下の妹で私とは17歳違います。八重子が子供の頃はもう私は就職して、なかなか八重子とじっくり話をする機会がなかつたんです。一番八重子をかわいがついていたのは親父でした。いつもひざの上になだっこしてました。金賢姫さんの本にもそういう思い出が書かれています。

高校は中退という形になってしまいましたが、運動もやつていて活発な子でした。性格的には負けず嫌いで、何としても自分で生活を築いていくんだという強い意志がありました。逆に言うとその人が災いになつたのかもしれない。

また自分の手で子どもを育てていくという強い意志で、一人で独立してアパートを借りて生活を営んでいました。あの頃、女手一つで子どもを育てていくのは大変だつたと思います。従つて、仕事も飲食店関係の仕事にならざるをえなかつた。2年弱勤めていましたが、当時、私たちの所に妹が来て、子どもを預かつてくれということもありました。妻が、家で面倒見るから昼間の仕事につきなさいと意見したんですが、結局そうならなかつた。失踪してからも、まさか拉致とは考へていませんでした。そのうち帰ってくるだろうと思つていました。日にちが経つにつれて、これは何か事件に巻き込まれたと思つてました。あの頃は夢中に過ごしてきたという感じですね。

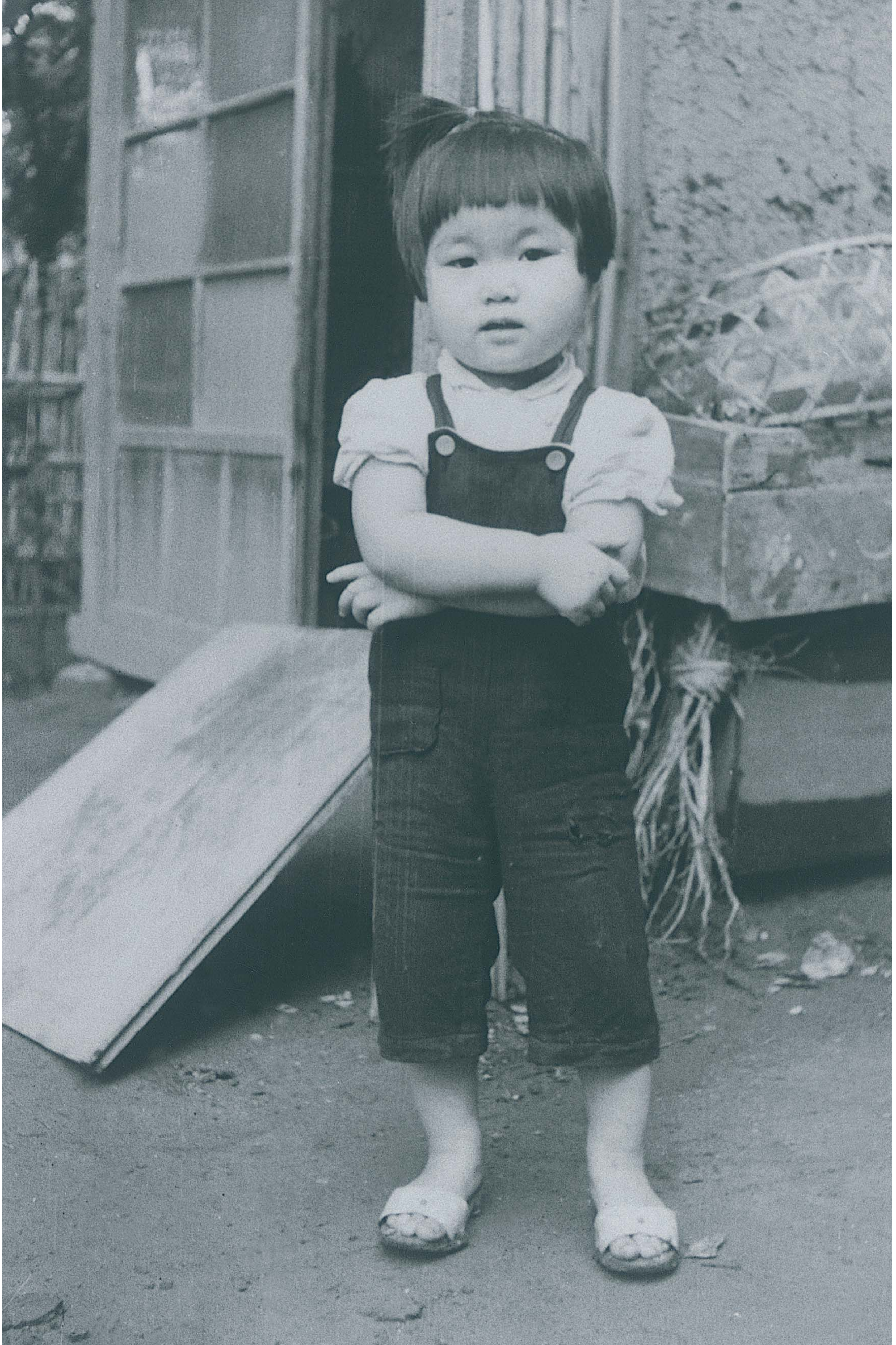
昭和62年(1987年)、北の謀略による大韓航空機爆破事件があり、金賢姫の証言によって、金賢姫を教育した日本人女性があり、それはこういう人だとの向こ

飯塚耕一郎さん(八重子さんの息子)

田口八重子の長男で、飯塚繁雄の次男である飯塚耕一郎です。今日は、田口八重子さんの人柄や当時のことを話す場ですが、私は親戚一同の中で思い出が一番少ないと改めて思つてしまいました。この事実はおかしい話ですよ。27年生きてきて、田口八重子さんについて何かしゃべると言われても、正直、もどかしい気持ちです。母親とも思えないじゃないですか。母親というと自分の中で偽りになつてしまうという部分と、本当にそう思いたいという部分とが混沌としています。

会社に入りたてで海外研修に行くという時、戸籍謄本を見ると続柄が養子になつているんです。分け隔てなく育てられましたので上の3人は本当の兄弟と思つていました。心の平静を保つために1週間くらい時間を置いて実家に帰り、親父に、なぜ養子と書いてあるのかと聞いた時、しらふのままでは話せないということでした。そこで近くの寿司屋に行つて聞きました。実の母親が連れ去られ、大韓航空機爆破事件の犯人の教育係をやつていたと聞きました。その後ずーっとどうしようもないもどかしさに捕われ続けました。お母さんとも思えないが何とかしてあげたいという気持ちですね。私ができることは、彼女が帰つてきた時に、私が背筋を伸ばした大人だと思われようになりたいということでした。それしかあなたの子どものもなんだよとアピールできないのかなと。北朝鮮にも負けない、田口八重子さんにも認めてもらえるような生き方をすべきかなと思つてました。そして彼女としばらく過ごすうちに、自然に「お母さん」と言えるようになりたいと思つています。





田口八重子さん①

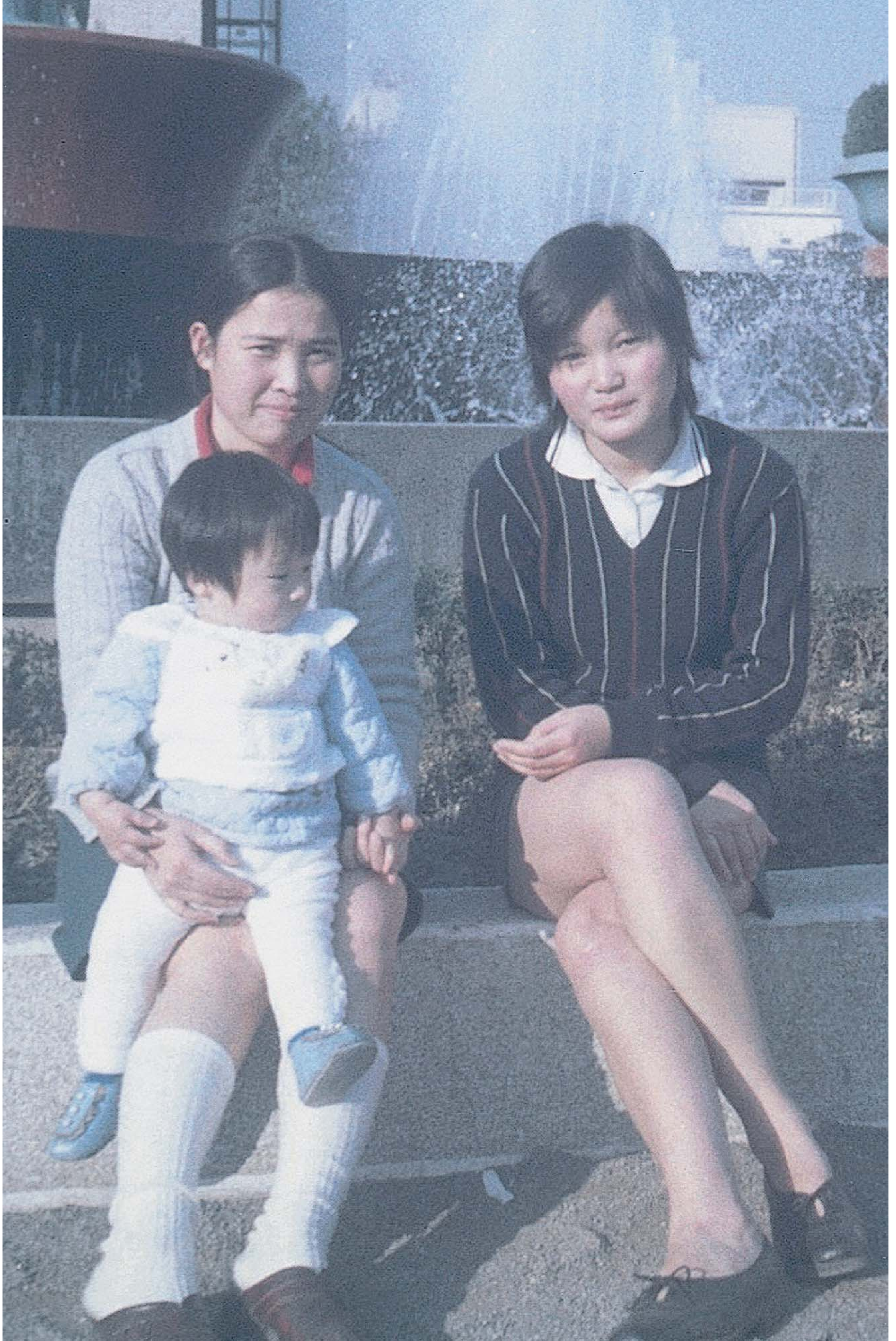
父親にとっても可愛がられた末っ子の八重子さん。5歳の頃、自宅前で。



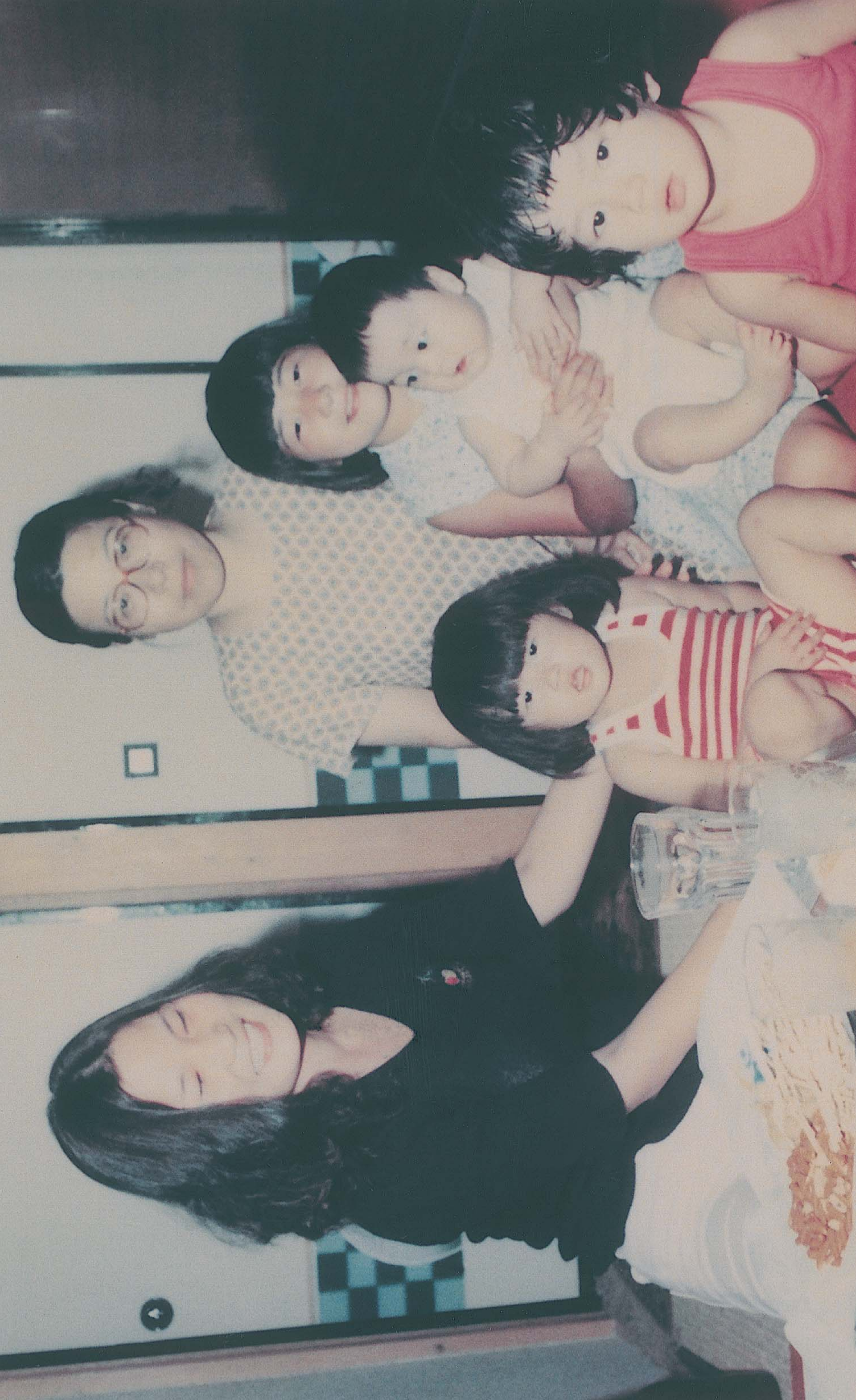
田口八重子さん② セーラー服姿の八重子さんは中学生。兄・飯塚繁雄さん(右端)の結婚式の日のスナップ写真。 045 2-33



田口八重子さん③ 兄・繁雄さんの長女を抱っこしている14歳の八重子さん。
——子どもが大好きな妹でした(兄・繁雄)



田口八重子さん④ 八重子さん16歳のとき(右)。姉と並んで。東京・北区赤羽公園にて。

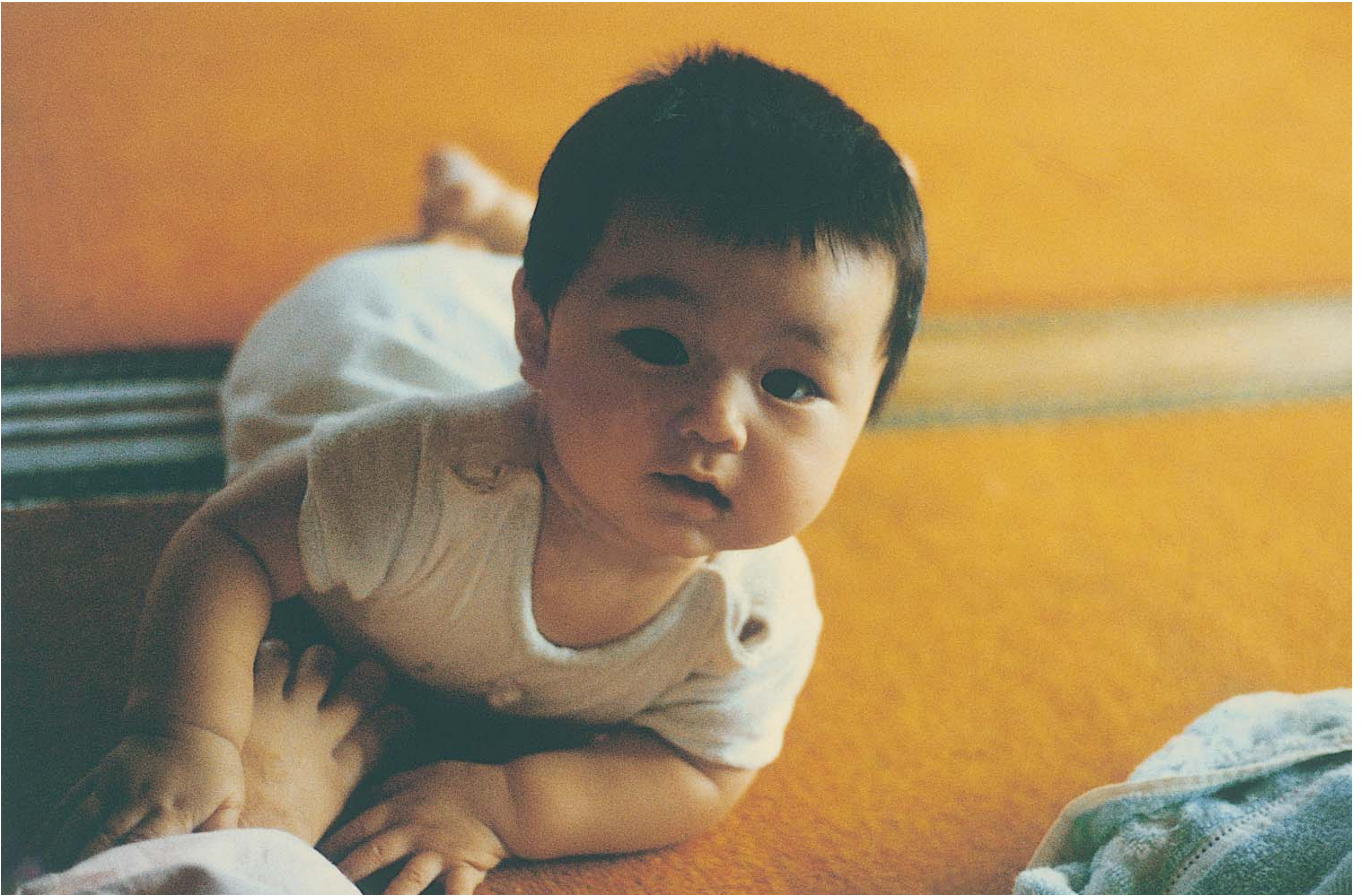


田口八重子さん⑤ 実家に近いアパートの部屋で、先に引越すことになった仲良しの友人のお別れ会を開いた八重子さん(左端)。2歳の長女(左から2人目)と生後半年の長男・耕一郎さん(右から2人目)に向けられた母のまなざし。昭和52年(1977年)8月



田口八重子さん⑥

拉致直前、22歳の八重子さん。幼い2人の子どもを母の手一つで育てるための就職活動用に撮った写真。
昭和53年(1978年)



田口八重子さん⑦

＜写真上＞

母・八重子さんが拉致されて程ない頃、1歳のときの長男・耕一郎さん

＜写真下＞

小学校卒業式のときの耕一郎さん。平成元年(1989年)3月